

大濱信泉プロジェクト『勇気づけの教育』の推進 (11)



～ 自己肯定感を高める5つの承認 ～

石垣市教育委員会 学校教育課長 前三盛 敦

子どもは保護者やまわりからの承認を得て、自分は価値ある存在と認識し、自信を持って生きていくことができます。また、承認を得た子どもは、「自己肯定感」や「自己有用感」が高まり、やる気が育ち自発的に努力し成長するようになります。

では、どうすれば子どもたちに効果的な承認を行うことができるのでしょうか。「勇気づけの教育」では、子どもの自己肯定感を高めるために、承認を①存在承認、②意識承認、③行動承認、④成長承認、⑤成果承認の5つの視点に分けて推奨しています。

まず、私たちが日常、子どもたちのテストの結果やスポーツやコンクールの成績、達成できたことに対して「すごいね！」と褒めている承認は、⑤成果承認になります。これは、はっきりとした素晴らしい結果に対し、誰でも「合格おめでとう」や「優勝おめでとう」などと承認することができます。しかし、成果承認は、褒めた瞬間は相手を喜ばせるものの、子どもの自己肯定感ややる気を持続させる効果は、あまり高いとはいえません。なぜなら、「よく出来たね！」と褒められるたい子どもは、次も何かの成果を出す必要に迫られ、なかなか認めてもらえない成果が出せないものより、成果が出せるものだけにチャレンジするようになってしまうからです。

では、どのような承認が児童生徒のやる気を高めるのでしょうか。それには、④成長承認が有効です。なぜなら、人は、結果が出て出なくても自分の努力や成長を認められると、これまでやってきたことが無駄ではなく自分の成長につながったと感じ、次回からも「やれば伸びるのだから、次はもっと努力する時間を増やしてみよう」、「方法を工夫してみよう」等、少し難しいことでも頑張ってみようと思いが高まるからです。『男子、三日会わざれば刮目（かつもく）して見るべし（三国志）』とあるように、子どもは、ほんのわずかな間でも確実に成長しています。褒め伸ばし上手な保護者や先生は、子どもをしっかり観察し、変化や変容を頻繁に承認しています。つまり、勇気づけのプロは、あらゆる生活や学習場面で子どもの成長に気づくプロと言えます。

次に、③行動承認、②意識承認についてです。例えば、子どもが「遅刻をしないように早起きする」とか「家庭学習を毎日1時間頑張る」等、目標を立て3日も続かなかつたら、皆さんは何と言って承認しますか。なかなかプラスの言葉をかけることのできる方は少ないのではないのでしょうか。そこで考えていただきたいのが、これまでお伝えしてきた「結果」や「成長」は、「行動」から生まれるということです。そして、その「行動」はやろうと思った「意識＝やる気」からはじまります。だから、例え、3日坊主でも3日も「行動」したこと、自分を変えようと「意識」したことを丁寧に承認して欲しいのです。人の「意識」と「行動」から、すべてのものが創造されます。ぜひ、「行動承認」「意識

承認」も大切にしていきたいです。

最後は、勇気づけの承認の中で一番大切な①「存在承認」についてです。人は誰もが自分一人では何もできない赤ちゃんでした。何もできなくても「生まれてきてくれてありがとう」「あなたがいるだけ幸せ」と、ただいるだけで十分であるという存在でした。その赤ちゃんが大きくなったのが、幼児児童生徒であり大人でもあります。「存在承認」は、人が人として、例え結果がでなくても、成長が遅くても、行動できなくても、意識しなくても、「あなたはあなたのままで素晴らしい」という最強の承認になります。自分をそのまま丸ごと受け止められて育った子どもは、心のエネルギーがあがり、自分を成長させようとするエネルギーが湧きます。そして、チャレンジ行動が生まれ、成果が出ます。つまり、「存在承認」があって→「意識」→「行動」→「成長」→「結果」という人生を豊かにする生きる力の連鎖を生むのです。

具体的に、「存在承認」は難しいものではなく、「あいさつをする」「名前を呼ぶ」「声をかける」「話を聴く」「気遣う」等になり、その人の存在そのものを大切に承認することで、「いつもあなたのことを気にかけているよ。」というメッセージになります。ぜひ、お子様の存在そのものに視点をおいて「存在承認」を行って下さい

以上が、子どもの自己肯定感を高める5つの承認です。ご理解いただけましたでしょうか。石垣市教育委員会では、今年度も子どものよさや可能性を伸ばし、未来を切り拓く力を身につけさせるために「勇気づけの教育」を推進してまいります。保護者、地域の皆様、子どもたちへ5つの承認の温かい声かけをどうぞよろしくお願いいたします。